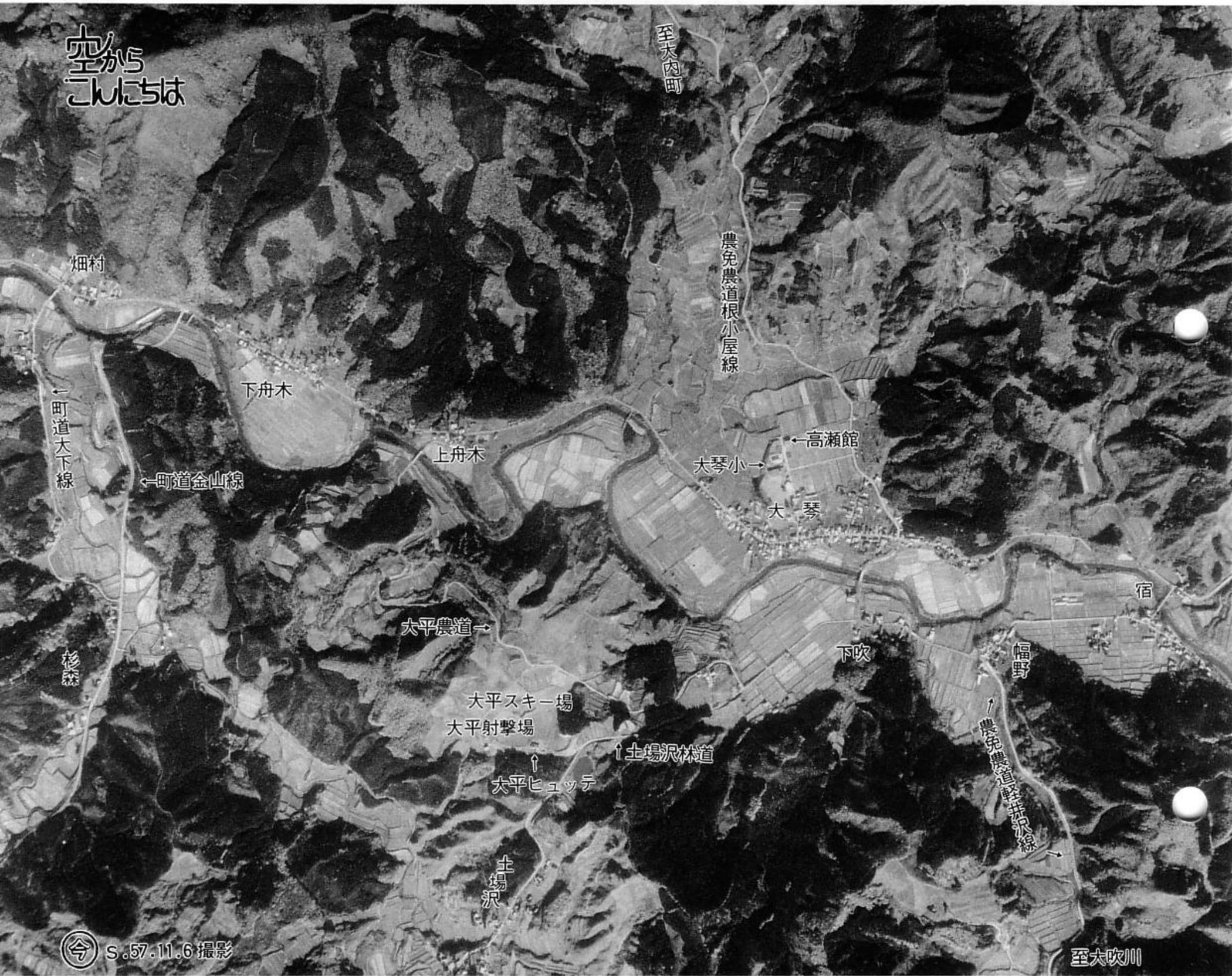


東由利町報

9月

昭和58年

No. 342 昭和58年9月1日発行 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画財政課 毎月1日発行



市郡に誇る「大平スキー場」

町の西部に位置し、本荘・由利・大内の一市二町に隣接する宿地区。近年、山振事業や農村基盤総合整備事業（ミニ総パ事業）、新農業構造改善事業などの施行によって、ほ場整備をはじめ、農道、集落道、研修集会施設、簡易水道等が整備され、地区の様相は一変しました。

大琴からわずか一キロのところにある大平スキー場は、五十六・五十七の二カ年度にわたって照明灯、簡易リフト、ヒュッテ等が整備されて、本荘・由利地域で唯一のナイタースキー場に変身。交通の便も良いこともあって、昨シーズンは約二万二千人の利用客が訪れ好評を博し、「大平」とともに「東由利」の名を広く知らしめました。

国道一〇七号線をはさみ、去る昭和五十二年から農免農道整備事業根小屋地区・軽井沢地区として、全幅七メートル車道幅員五・五メートルの改良舗装工事が進められてきました。大吹川間一〇・九キロは、今年で完成。地区内縦断道路として、沿線住民の経済交流、生活圏の拡大等、地域発展に大きく貢献していくものと期待されています。

畠山町政がスタート

新旧町長が事務引き継ぎ

第四代東由利町長に就任し、十日午前八時三十分過ぎ、出た畠山亮二郎町長は、八月二

日に迎えられて初登庁。午前九時から役場二階会議室で全職

員を前に、就任に当たったのあいさつを行いました。その中で畠山町長は「町政の主人公は町民であり、住民との対話を常に念頭におき、誠実、清潔、実行をモットーにして職責を全うしていきたい」と基本姿勢を述べたあと、職員に対し「職責の自覚と再

確認▽奉仕観念と公僕精神に徹した仕事▽十二分の能力発揮▽創意工夫を凝らした仕事▽明るい職場づくりーなどを強く要請しました。これに先立つ八月十九日、四期十六年間にわたって町政を担当された小松前町長は、午前十時から役場二階会議室

で小松民三郎助役に免職の辞令を交付したあと、十六年間の回顧とともに将来の展望に對する所感を述べ「東由利を永遠に発展させるため、ますますのご進捗とご健闘を期待する」と締めくくり、全職員と町民に見送られて役場をあとにしました。



【上】事務引き継ぎを終え、握手する新旧町長(58. 8. 22. 役場応接室で)
【中】町職員、町民らに見送られ役場をあとにする小松前町長
【下】町職員、町民らに迎えられて初登庁する畠山新町長

町政の主人公は「町民」

畠山町長が就任のあいさつ

畠山町長は就任にあたり八月二十日、全職員に對し次のようにあいさつしました。(要旨掲載)

私は、このたび首長に選ばれ町政を担当することになりました。町政は、本日から私の全責任のもとに推し進められることとなります。

申すまでもなく、首長が代わっても町政はいつとときの停滞も許されないわけであり、微力ではありますが、本日より私は、皆さんのお力添えを得まして全力を挙げて町政に取り組んでいきたいと思ひます。今までより以上のご協力を寄せられますよう、特にお願い申し上げます。

東由利は、歴史的にも由緒ある町であるとともに、諸先輩の英知と努力が積み重ねられた数限りない実績と伝統を持つている町です。私は、この伝統と実績のうえに立ち、町政を引き受けることを光榮に存じるとともに、その責任の重大さをかみしめているところであります。

今日は、私の就任第一日ですので、町政をあずかるうえで、どんな考えを持ち、どんな仕事を推し進めようとしているのか、基本的なことを併

わけて、皆さんに是非実行してもらいたいことを五点申し上げたいと思ひます。私が町政をあずかるうえで基本的な考え方は「町政の主人公は町民である」ということです。住民の参政権に基づく選挙の行使により首長の座につきましたが、依然として町政の主人公は町民であることに変わりありません。これは民主政治の原点であり、この原点に立脚した仕事の推し進め方、これが私の基本理念であり基本認識です。

私の行うその仕事は、全て町民のためのものであり、町民自身のものです。町民が何を期待し、何を求めているかということを常に念頭に置き、行政を進めていきたい考えです。そのためには、住民との対話が常になければなりません。対話のないところに、住民の町政に対する考え方は出て来ません。町民が我々に対し、常に意見・文句の言える、あるいは激励もしてくれらるという自然の町政の進め方、これを貫いてまいり、

お年寄りを大切に

9月15日~21日

敬老の日・老人福祉週間



新旧町長の事務引き継ぎは八月二十二日、役場応接室で滞りなく行われ、名実ともに畠山町政がスタートを切りました。(就任、退任にあつたのあいさつは二・四面に掲載)



就任の挨拶する島山町長

「たいと思います。以上、町政をあくまで基本的な考え方と町政執行にあたっての考え方を申し述べました。具体的なことに

職責の自覚と再確認を

町職員として、これから私と行動をとるに守るべきこと、実行してほ

しいことを五、かいつまんで申し上げます。第一点は、公務員としての職責の自覚と再確認というこ

とです。我々公務員は、常に町民の前にさらされ、町民に監視されながら仕事をしている立場です。常に、反省と自分の周辺の見直しをしながら前進しなければならぬ職責です。そういう意味で、今日は首長の交代の日であり、私が責任を持つ機会ですから、もう一度考え直してみる、いい機会だと思えます。誤ちは正せばいいし、正しいことはあくまでも継続する、これが人間としての生き方であり、公務員として非常にたいせつなこと

については、その都度、皆さんと相談し、皆さんの意見・考え方を聞きながらやっていきたいと思えます。

です。

私は、公務員としての責任、任務を逸脱した行為等には厳しく対処していきたいと思つています。規律の順守、綱紀のしゆく正を常に頭において勤務に励んでほしい、それが公務員のきん度であり、町民に信頼される基礎になるから

です。第二点は、奉仕観念と公僕精神に徹した仕事をしてほしいということ

申すまでもなく、我々公務員は全体の奉仕者です。役場職員は、いわゆる町民全体に対する奉仕者です。あらゆる面において責任を持った皆さんは、公務員としての資格において奉仕しなければならぬ職責があるわけです。奉仕

観念を忘れた公務員は、公務員としての資格が無い、こう申し上げても言い過ぎではないのです。

町民に対する接し方、つまり、公衆処遇、接遇の問題があります。何がどうしたらよいかかわからず、役場に行つて相談してみようとしてきた人、役場を信頼し、役場職員を信頼し頼りにしてきた町民に対してどう接しているか、素直に反省してほしいわけです。

ほんとうに困って来た町民に対しては、きめ細かい、温みのある勤務態度を望むものです。弱いところに光を当てる、温い手を差し延べてやる、これが行政であり、政治であるはず

です。その根本を忘れない勤務の仕方を望むわけです。三つ目は、それぞれの職分に全責任を持ち、しかも、自分の実力、力を十二分に発揮してもらいたいということ

です。職場の組織・機構というものは、それぞれの職員が、それぞれの立場・職分において持ち味を生かし、自分の持つ

ている力を十二分に発揮し、しかも、関連する横の係との連携を保ちながら力を合わせ

て一つの目的に向かって推し進めることによつて機能するものであり、イキイキした活力ある組織が出来上がるものです。責任は全面的に私が負います。皆さんそれぞれが十二分に力を出していただくよう

お願いしておきます。四つ目は、創意工夫を凝らした仕事をやってほしいということ

です。御承知のように現在は、地方自治の転換期、また地方財政の危機とも言われています。一面また、大きな意味において、地方の時代とも言われています。高度経済成長時代における行政は、はつきり言つて楽でした。これからは、そうはいきません。ほんとうに地方自治の、地方の力を問われる時代に入るわけ

です。ご承知のような財政事情のもと、高度経済成長時代からきているいろいろな施策の面のひずみに対処しながら、新しい時代を迎えなければなら

ない、大変なこと。頭の悪い人がたくさんいても、知恵を出さないとい仕事はできません。知恵を出した仕事、創意工夫を凝らした仕事をやってほしいのです。

最後にお願ひしたいのは、明るい職場づくりに皆さん協力し合つてやってほしいということ

です。私は、明るい町政の実現に努力して参るつもりですが、その根本になるのは職員の職場の明るいムードづくり、明るい職場づくりです。面と向かつてはなにも言えない、陰でブツブツ言う、ジメジメした職場であつてはいけません。お互いに言いたいことを言い、励まし合い、酒も飲み交わす、そうした風通しのよい姿があつてこそ職場というものは逆になつていくわけ

です。責任を転嫁することなく、常に苦楽を共にし、喜びも悲しみも共に分かち合うという気持ちで仕事をしてほしいと思ひます。以上、皆さんに是非実行してほしい点を申し上げます。

「誠実・清潔・実行」モットーに

私は、「誠実・清潔・実行」をモットーにしてこれまで生きてきました。仕事には誠実に取り組む、しかも、公務員としての身辺は常にきれいでな

ければなりません。そして、最後には実行です。口先よりも行動、実行をもってその実績とするものです。今後、この三つをモットーとして職

責を全うして参りたいと考えています。皆さんも、我々の首長はこういう考え方を持つて仕事をしているのだという頭になつて、努力し、実力を発揮していただくことを期待したいわけです。

今日は就任第一日ですので、私の基本的な考え方を申し上げました。あとは、それぞれ職場で接する中において皆さんとご相談しながらやっていきたいと思ひます。今後、私に對し、前任の町長さん

秋の全国交通安全運動・9月21日～30日

子供とお年寄りを事故から守ろう！

お年寄りの心理を知る - 交通事故を防ぐ第一歩として、お年寄り特有の心理と行動特性について理解しましょう。



東由利の永遠の発展を

小松前町長が退任のあいさつ



退任の挨拶をする小松前町長

小松前町長は退任にあたり八月十九日、全職員を前に次のようにあいさつしました。(要旨掲載)

最初に、私が就任して以来満十六年間、職員の皆様には一貫してご協力をいただいたことに、心から御礼と感謝申し上げます。

この機会に改めて申し上げますが、一通り十六年間の回顧とともに将来の展望を申し上げ、今後の皆様方の行政の参考にさせていただきたいと思っております。

いつも申し上げてきました。東由利は他と連帯のない地帯です。と同時に、秋田県の中でもたいへん低い財政指数です。こうした条件下で町勢を發展させるといふことは、工夫と苦勞の多いことであり、いつにかかって町行政に期待される点が大いなのです。皆様にも、将来ともにそういうハンデのある条件下にある

行政であるという認識のうえに、ご健闘されますことをお願い申し上げます。

私は、基本的な行政を三つ考えてきました。一つは農業の基盤整備、もう一つは道路の改良、そして文教施設の改善—ということ。お陰をもつてこれら問題の基本は解決をし、なお将来に対しては、レールもすでに敷かれていると考えても過言ではないと思うしだいで。

町民の経済力を高めるための諸施策の基本になるのは、自力でしょう。自力を尽くして初めて他力が協力し、援助するものと思っております。ひとり行政ばかりでなく、人間個人の生活でも同じです。自力というものは、やはり農業内の生産を高め、経済の向上を図ることが基本です。

財政力が弱い本町では、全国いたるところにケースがある公共事業を導入し、ある期間はこの公共事業の経済の恩恵を受けて町民の経済、町の経済的發展を考えていくことが施策上、大事なことだと思っております。

余剰労働力の吸収については、第一に自力を考え、そして他力を構想するということが本町のような条件下で

は、一人でできない要素がむしろ多くあります。本荘市由利郡の広域圏の發達、また、国道七号線沿線に漸次予想される工業関係との連携、こういうことを基本に考え、構想していかねばならないのではないかと思います。

ただ今、助役に職を免ずる辞令を交付しました。ひるがえってみますと、小松民三郎君は私の助役として、ひと言

次の行政への影響を洞察し

自分のことを話して恐縮ですが、私は昭和十七年七月に旧玉米村長に就任し、二十年の敗戦を越えて二十一年に一期を経過しました。さらに再選されていたところ、公職追放令が出来、確か二十一年十一月に公職を追放されたのです。

その後、ご承知のように昭和二十六年に講和条約が成立し、公職復帰が出来るようになり、二十八年にまた立候補し当選しました。その際、当選後一週間くらいで自治省から町村合併の指導を受けたのです。村長に当選していきなり町村合併をやらなければいけないということ、皮肉の感があったわけではあります。が、国の方針がそうだといいことで、早速、町村合併の作業に入ったわけです。その際、入会権の整理をしました。ちようど林業担当だった今日の

で申すならば、表面に出ない「黒子に徹した」ということです。今日までの道路改良に当たっては、常に陰になつてつづれ地の解決を推進してきてました。私は、大きな功績と考えています。

また、現在百六十億を超える大きな農業関係の公共予算の獲得、その過程においての県営ほ場整備事業、肉団事業等の導入、特に肉団事業の導

入にあつては、客観的に心配された個人の融資について助役が個人的に保証をし、融資主の農協の不安を解消して事業の發足を促した、これは大きな功績だと考えています。

この経験が、その後、第一次の林業構造改善の場合の入会林近代化に生きたわけであり、また、出羽丘陵開發事業についても、他の町村が三カ年必要なものを一カ年間という短期間で重大な本町の課題を解決し得たと考えています。行政をなす場合は、基本的なものはいかげんにしないで整理をし、それが次の行政にどう影響するかということばならないということ、一つの例としてご参考までに申し上げます。

その後、昭和四十二年から東由利の村政を担当させていただき、町制を施行し、今日に至りました。

私は、戦争、町村合併という、二度大きな変化の時代を経験させていただきました。今度は、私が申し上げるまでもなく低成長時代を迎えま

入に当たっては、客観的に心配された個人の融資について助役が個人的に保証をし、融資主の農協の不安を解消して事業の發足を促した、これは大きな功績だと考えています。

「時代は人をつくる」また「人が時代」をつくるということばがありますが、どちらも真実でしょう。歴史とそれに関わる人間を研究することによって、政治や行政は機械的な無機質のものではなく、人間との結びつきによって有機的に起こるものであることが理解できるでしょうし、小さな自治体の行政にもいろいろな示唆を与えてくれると思います。歴史、また人間を通

歴史・人間を通して行政を学び理解する

す。公債額も増え、公債比率も高くなっている本町の財政状況の中で、将来、東由利の行政を發展させるかということとは、非常に苦心のいることだと考えます。こうした中にあって、目の前のデスクワークでなく、これからの世界経済、日本経済というものは、どういう仕組みで、どんな方向に動いていくかということをよく考える必要があると思

して行政を学び、理解することも必要ではないかと思っております。ここにいて皆さんとお別れのことばを申し上げます。は、やはり感慨無量です。しかし、東由利というものは永遠に發展し、また發展させていかなければなりません。それは、あくまでも我々の力でやっていくんだという、行政の責任を考えまして、ますますご精進とご健闘されますことを心からお願ひし、期待しております。長い間ありがとうございました。



恩師・友との数年ぶりの再会を喜び合う光景が、今年もあちこちで



責任ある大人として、船出をした20歳の若者たち

人の進むべき道を誤らず

百十六人が大人の仲間入り

終戦記念日の八月十五日、町成人式が今年も有鄰館で行われました。

対象者は、昭和三十七年四月二日から三十八年四月一日の間に生まれた人たち百十六人で、当日は百二人が出席、二十歳の門出を祝いました。

出席者の中には久しぶりに里帰りした県外組も多く、会場のあるあちこちでは、手を握り、肩を抱き合せて数年ぶりの再会を喜び、旧交を温め合ういづもながらの光景が見られました。

式典は午前九時に始まり、新成人一人一人が点呼、紹介されたあと、代表の伊東透君(高村)に「成人おめでとう、一日一日を大切に、良い伝統は受け継ぎ、さらに優れた創造を加えて新しい時代を作ってください」と書かれた

成人証書が、大塚和穂君(上通)と鈴木美幸さん(沼)に記念品がそれぞれ町長から贈られました。

続いて、式辞に立った小松町長は「人の歩く道路も道だが、道の中には、人間として歩まなければできない道、また、進むべき道がある。どんな考え、感情を持ち、道徳感を持って歩んでいくかは成人式を迎えた皆さんの選択によって決まる。地球の責任者である人間として、大きくは地球、日本、小さくは東由利町、自分の住む集落や家の進むべき道を発見し、間違いのない道を歩んでいってほしい」と激励。さらに、小野町議会議長からお祝いのご挨拶が述べられました。

「成人式を機に、人生第二の出发点に立った私たちは、自己の人格完成に努力するとともに、新成人者の将来に課せられる数多くの難問題の一つ一つ自覚を持って解決するとともに、郷土東由利、国家、社会の進歩発展のため最善の努力をする」と力強く誓いのことを述べました。

栄光は血のにじむ努力と忍耐に支えられ

このあと、秋田経済法科大学付属高等学校教諭で同校野球部前監督の古城敏雄氏が「スポーツを通しての人生観」と題し、約一時間半にわたって記念講演。

秋田商、経済大付の野球部を率いて甲子園出場七回の輝かしい実績を持つ古城氏は、栄光は血のにじむ努力と忍耐



新成人者を代表し、力強く誓いのことばを述べる齋藤和博君

映画機やカラオケセットなどを整備

「コミュニティ助成事業」で購入

町では、このほど、財団法人自治総合センターからの助成で、十六ミリ映画機一台、ビデオ装置一式、カラオケ装置一式、写真機材一式、発電



宝くじ助成事業で購入したカラオケセット

が、宝くじ受託事業の一部をコミュニティ活動等に助成することにより、コミュニティの健全な発展を図るとともに宝くじの普及広報事業を行うというものです。町ではこうした趣旨に沿って、これらの機材等を有効に活用してよりよい町づくりに努めることにしています。

正午前、記念写真撮影を済ませた新成人者たちは、昼食の後、中学時代のクラス別に分かれてそれぞれ同級会。生ビールのジョッキをかたむけながら、近況報告や中学時代の思い出話に花を咲かせ、責任ある大人としての「船出」を祝い、喜び合っていました。

に支えられて実を結ぶものであることを確信してきた氏の野球人生を通し、「人生は座折の連続であり、座折との戦いである。苦しいときは基本に立ち返り、基本に忠実に、お互いに思いやりの心を持ち、信頼し合って仲よくがんばっていくことである。野球の試合も人生にも、競ることが必ずあり、この競り合いに勝たなければ栄光をつかむことはできない。それには、見えない練習、かくれた練習をすること、つまり、人が見えていないときに努力することであり、自分がやるべきことをきちんとやることである」と語りかけ、出席者に深い感銘を与えました。

第八回町議会臨時会

石高地区農道整備費など補正

第八回町議会臨時会は八月九日に招集され、五十八年度一般会計補正予算など五件を審議、いずれも原案どおり可決、承認して閉会しました。

この日、八月十九日に任期満了を迎える小松町長は、冒頭の行政報告の中で「議会と町民の皆さんの長年のご厚情に感謝するとともに、町の永遠の発展を祈念する」と退任にあたってのあいさつを述べました。

また、議案審議終了後には、四十七年五月以来、小松町長を補佐してきた小松民三郎助役が、町長とともに退職する旨のあいさつを述べました。

行政報告

健全財政で引き継ぐ

財政調 整基金 現在高約一億五千万円



行政報告をする長 小松

過去十六年間を顧み、所感を申し述べさせていただきます、併せて、現在の行政の状況を報告したいと思います。

私は、これらの施策に重点を置き、過去十六年の間、町政の運営を図ってきたつもりです。そして、これらの事業はおおむね実現をみています。農協合併にはじまる一連の農業基盤整備事業、国道一〇七号線の改良とこれに連絡する県道、町道各路線は、町勢発展の骨格をなすものであります。

小中学校統合は、避けて通れない課題でありました。まさに政治生命をかけて解決をみたのであります。以上の諸問題解決に、議会

の皆様には曲折を経ながらもご協賛をいただき得ましたことに、衷心から感謝申し上げます。将来を展望するに、出羽丘陵開発事業は、本町の可能性をかけた事業でありまして、大胆にして細心の配慮をもって成功に導かなければなりません。林業振興は、本町将来の繁栄のために重要な行政であります。

現在計画中の第二期の山村振興事業は、魅力ある東由利町を創り出すためのデザインであります。本町の余剰労働力の吸収の

この機会に、町の財政状況をかいつまんでご報告します。当初予算に比較し▽町税は九百三十二万円増▽地方交付税は二千三百万円増▽繰越金は三千三百九十八万円九千増一合計六千五百三十九万九千

この際ご報告しますが、助役小松民三郎君より辞表が提され、これを受理いたしました。可能性を掘り起こすのは、自分自身の力でなければなりません。本町の発展は、町民自体の根性を土台とした自主の気概をもって、精神面にも生産面にも対応すべきものであると考えます。

可決案件(概要)

【専決処分の承認を求めることについて】

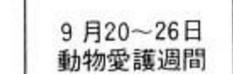
○昭和五十八年度町簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

高瀬川橋補修工事に伴い、水道管添架の移設に要する経費二百八十六万八千円を歳入歳出予算にそれぞれ追加し、総額四億四千七百九十四万四千円とした。

銀行等の金融機関が毎月第二土曜日休業となったことに伴い、関係条文を改めたもの。【昭和五十八年度町一般会計補正予算(第四号)】

歳入歳出予算の総額に、それぞれ二千六百七十五万円を追加し、歳入歳出それぞれ二十三億七千七百七十一万五千円とした。

【昭和五十八年度町老人保健医療事業特別会計補正予算(第一号)】



9月20~26日 動物愛護週間

早期整備を強く要請

107号線整備促進期成同盟会 有鄰館で総会



整備促進を一層強く要請していくなどの事業計画を決めた総会

部を結ぶ大動脈でありながら、未だ狭い曲折区間が随所にみられ、交通量の増加、高速交通体系への対応の面からも一日も早い改良が望まれています。

総会には、会員となつてい各各市町の首長、議会議長のほか、来賓として笹山代議士、柴田康二郎、佐藤次男両県会議員、梅森県土木部技監、平鹿土木事務所長、由利同次長らが出席。会則に基づいて小番本荘市長が議長をつとめ、行政改革など厳しい情勢の中で、沿線住民の生活及び福祉の向上、産業発展のため、同線の早期改良整備を関係各方面に一層強く働きかけていくなどを内容とした事業計画を

工事発注情報

7月21日～8月20日発注、契約金額が百万円以上のもの

工事期間中、通行される皆さんには不便をおかけする場合がありますが、特段のご理解とご協力をお願いします。

道路改良

- 下小屋線
- ▽施工方所 下小屋地内
- ▽工事期限 10月30日

- 上野線
- ▽施工方所 新町上野地内
- ▽工事期限 11月30日

- ▽契約金額 四〇八万円
- ▽施工業者 村上建設

- 西の浜線
- ▽施工方所 西の浜地内
- ▽工事期限 59年3月10日

- ▽契約金額 七六五万円
- ▽施工業者 村上建設

- 蔵新田線
- ▽施工方所 田子の沢地内
- ▽工事期限 10月20日

- ▽契約金額 三三八万円
- ▽施工業者 大沼組

- 国道一〇七号線

- ▽施工方所 柳沢建設

- ▽契約金額 四八一万円

- ▽施工業者 柳沢建設

- 国道一〇七号線

- ▽施工方所 柳沢建設

- ▽契約金額 四八一万円

小松助役が退職

11年有余にわたり首長補佐

小松民三郎助役が、八月十九日付で退職しました。



小松民三郎氏

小松助役は、昭和四十七年五月一日に就任して以来、十一年三カ月余にわたり小松栄男町政の補佐役として、産業生産基盤や道路網の整備、生活環境整備等、町勢発展に尽くしてこられました。

特に、助役就任前二十三年間にわたる農協生活の経験か

ら、農政、土地改良通としても知られ、県営ほ場整備事業や農業構造改善事業、農村基盤総合整備事業など農業振興施策の導入、施行、また、昭和五十六年八月大水害への即時対応等、その手腕を発揮してこられました。

長い間のご努力に対し、その労をねぎらうとともに感謝の意を捧げたいと思います。

ほんとうにご苦勞さまでした。

決めました。

本町では今秋、延長二、九〇〇の蔵工区が完成。新たに、奥ヶ沢地区、大琴地区の改良工区も内定しており、今後、これら新工区の早期着工、早期完成を関係機関に重ねて要請していくことになっています。

NHKヤングミュージックフェスティバル イン秋田作品募集

NHKでは、県内のアマチュアの自作・自演によるフォーク・ロック・ジャズなどのポピュラー音楽を対象としたコンテスト(ヤングミュージックフェスティバル)の作品を次により募集しています。

【応募作品】

- 一、あらゆる種類のポピュラー音楽で自作・自演の曲とし、著作権を作者自身が有しているものに限定。
- 二、未発表の作品であること。
- 三、応募は一人(または一グループ)一曲に限る。

【応募資格】

- 一、一人でもグループでも可。
- 二、アマチュアの方に限定。

【応募方法】

- テープ(オープン・カセットどちらでも可)に録音し、所定の応募用紙(NHKにありますが)を添えて申し込みください。

【締め切り】 10月8日

【応募・問い合わせ先】

- 〒010 秋田市山王一丁目一番二号 NHK秋田「ヤングミュージック」係(電話〇一八八一三三―五四一一・内線二二七)

強豪相手に健闘

第四十九回全県少年野球大会兼第三十二回秋田県中学校総合体育大会野球大会が、八月二日から四日間、秋田市の八橋、県立両球場で行われ、本荘・由利一区代表として出場した東由利中は、古豪を相手に健闘しましたが惜しくも初陣を飾ることはできませんでした。

びた大会二日目の四日、県立球場二回戦第四試合で、これまで優勝候補に挙げられた強豪・秋田南中と対戦。東中は、二回表に幸先よくスクイズで先制。その後も善戦しましたが、秋田南の二番手ピッチャーを打ち崩すことができず、結局四―一で初戦突破はなりませんでした。

色違いの帽子をそろえ、三塁側内野スタンドで全校応援。ネット裏には、大型マイクロバス二台に小型マイクロバス、自家用車などでかけつけた父兄や一般町民、それに、秋田市や本荘市など町外在住の東由利人らが大ぜい陣どり、必勝と書かれたうちわを振って選手の一投一打に熱い声援を送り続け、応援合戦では大規模の秋田南を圧倒していました。

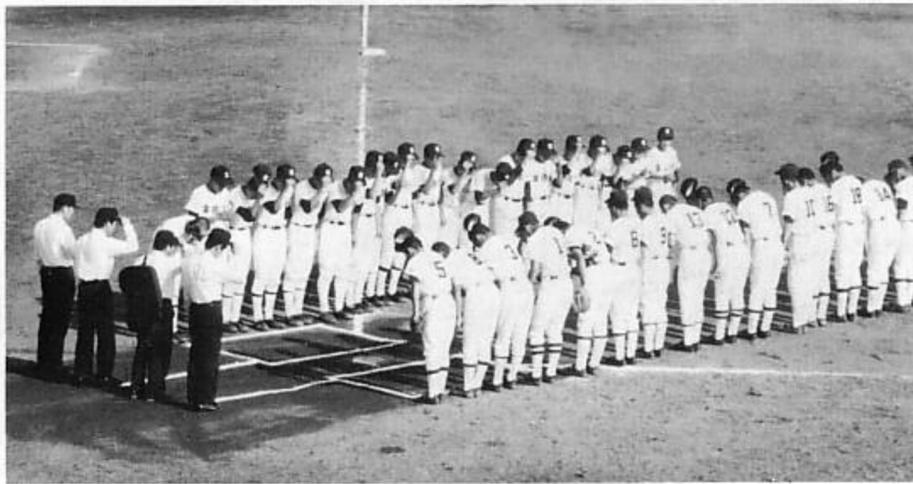
（二回戦）

| | | |
|-----|----------|---|
| 東由利 | 01000000 | 1 |
| 秋田南 | 001201X | 4 |

初戦で涙のむ

回全県少年野球大会

「お願いします」……礼によって熱戦の火ぶたが切られた



攻 積極果敢な攻めを展開

守 打てるものなら打つてみる、守りは固い

熱戦を終えて

知識は学問から
人格はスポーツから

校長 島山 悟

今回、東由利中学校野球部全県大会出場に際しましては、町当局始め、町民の皆さん、また町外の皆さんまで大変なご後援をいただき、心よりお礼申し上げます。秋田市に参りましたら、東由利町出身者で作っております「ふるさと会」の皆さんからも応援いただき、感激いたしました。

監督 中津川 辰夫

町当局をはじめ教育委員会、全町のみなさま方、秋田市在住の方々、野球父母の会、学校等から絶大なご支援を頂戴しまして、心から厚くお礼申し上げます。

選手はなんとかして初戦を勝ち抜こうとしてがんばったわけですが、絶好機に追加点をあげることができず、残念ながら敗れてしまいました。

しかし、全県本荘大会で優勝し、続いて郡大会でそれこそ念願の初優勝を成し遂げたわけですので、選手、部員にとつては、今後の大きな力となっていくものと思います。

今後も部員と共にがんばっていきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

コーチ 大日向 健男

私も選手も地区大会の初優勝が悲願であったためか、県大会における結果を見る限り、初優勝に満足し、練習でも精神面でも勝利に対するひたむ

きな努力をおろそかにしてしまつたような気がする。今年も県大会の上位をねらえるようなチームであったと思えるだけに残念で、甘えのこわさと勝負ごとのこわさを改めて痛感した。進学後も野球を続ける子どももいると思うが、この教訓を将来への糧としてほしい。選手、部員のみなさん、これまで、本当にご苦労さんでした。

主将 島山 弘喜 (二年)

試合は八月三日だったが、前夜からの小雨が朝になつてもやまず、結局試合は次の日となつた。

試合前三塁側の控室で天王と鶴形の試合が終わるのをまつていた。気持ちがおちつかないせいか、すわつてなんかないられない状態だった。

いよいよ試合開始。初回いきなり満塁というピンチになつたが、あせつたりはしなかつた。東中がスクイズで一点を先取した。これならいけるぞと思つたがそこまで!!あつさりと同点にされ、逆点された。自分たちの力をだしきらないまま試合は終わってしまった。

僕達三年生にとつて悔いの残る最後の試合であつたが、県大会で試合が出来て満足である。一・二年生は僕達のあとをついでがんばってほしい。



↑初の県大会出場を果たし、強豪校相手に健闘した東中チームの面々

東中

第49



↑先輩頑張ってる……

全県大会出場メンバー表

東由利中学校 (初出場)

| 背番 | 位置 | 氏名 | 学年 |
|----|-----|--------|----|
| | 部長 | 真坂 要智 | |
| | 監督 | 中津川 辰夫 | |
| | 記録員 | 佐藤 久喜 | |
| | 主将 | 畠山 弘喜 | |
| 1 | 投手 | 石綿 伸朗 | 3 |
| 2 | 補手 | 石綿 弘喜 | 3 |
| 3 | 一塁手 | 小野 久一 | 3 |
| 4 | 二塁手 | 小松 優勤 | 3 |
| 5 | 三塁手 | 小野 敏勤 | 3 |
| 6 | 遊撃手 | 畑山 重彰 | 3 |
| 7 | 左翼手 | 高橋 茂也 | 3 |
| 8 | 中堅手 | 工藤 光之 | 3 |
| 9 | 右翼手 | 小畠 洋男 | 3 |
| 10 | 補欠 | 畠山 正角 | 3 |
| 11 | 〃 | 畠山 栄人 | 3 |
| 12 | 〃 | 阿部 精 | 3 |
| 13 | 〃 | 佐々木 弘 | 3 |
| 14 | 〃 | 佐藤 喜実 | 3 |
| 15 | 〃 | 畠山 明隆 | 2 |
| 16 | 〃 | 畠山 夫二 | 2 |
| 17 | 〃 | 小松 敏浩 | 2 |
| 18 | 〃 | 伊藤 隆夫 | 2 |
| 19 | 〃 | 佐渡 夫二 | 2 |
| 20 | 〃 | 渡 敏浩 | 2 |



←試合中、休まず熱い声援を送り続けた応援団

ベンチ前で監督の指示を受ける選手たち、さあ、反撃開始!



やった!「それいけワッショイ」 ナイスプレーに沸く応援席



選手小松 優

八月二日に全県少年野球大会の幕が切っておとされた。高まる鼓動をおさえて臨んだ開会式、何もかも華やかだった。八月四日第四試合目、試合開始のサイレンが響きわたる。相手は、強豪・秋田南、それだけで、コンプレックスを感じる学校もあるだろうが、ぼくたちにそれはなかった。ただ全力を尽くせば結果はどうあれと……。

しかし敗れてしまった。過去にこんな思いをしたことがあるだろうか。ここまでこられたのだと開き直ったりもした。でも、体の底から熱くこみあげるものは、おさえることができなかった。

スタンドから

応援団長 佐藤 敏也

新チーム結成後、野球部は

いろいろな大会で優勝や準優勝などしていたので、応援団の方も他の学校にまけじとがなりました。聞くところによると練習試合はほとんど勝っていたということだったので、応援の方も練習時間をふやして全校応援にそなえました。

応援が大変だったのは対下川大内戦と対秋田南戦でした。下川大内戦は初回に先制点をとられ、それから五回まで得点がなくハラハラのしっばなでした。対秋田南戦は、先制点を入れたもののあとがつづかず大変残念でした。自分としては一生懸命がんばったつもりです。いい思い出になりました。

PTA会長
野球父母の会会長
石綿 国雄

このたびの全県大会出場にあたり、町当局始め、町内外のみなさん、学校、PTA、全町あげての御支援、本当にありがとうございます。

新チーム結成以来、秋の新人戦、春季大会、全県選抜本荘大会、郡市一区の県予選とそれぞれ好成績をおさめることが出来ましたのは、先輩始め町内外のみなさんの野球に対する熱意とご協力のたまものと厚くお礼申し上げます。

全県大会は初戦で惜敗しましたが、選手諸君が敗れたことをふみ台にして、今後、大きく飛躍されることを期待します。

老いも若きも ハッスル

第15回町民運動会

第十五回町民運動会は八月二十八日、台山グラウンドで約二千人の町民が参加して盛

▶次走者を目前にスパート、あとはまかせます(スウエーデンリレー)



大に行われました。

競技種目には、一般走や自治会対抗リレー、分館対抗リレーのほか、風船とり、アメリカ競争、ビヤだるりリレーなどといったレクリエーション的なものも取り入れられ、笑いとお年寄りまで二十二種目に大いにハッスルしました。
結果、総合順位では、蔵自治会が優勝、祝沢・茂沢と蔵新田自治会が準優勝を飾り、それぞれ大トロワイを手にしました。



◀ぼく一番大きな風船とつちやった(風船とり)



▲飲むとすぐなくなるのに、入れるとなるとどうして、どうして……(満杯リレー)

▶おしろい美人になりました(アメリカ競争)



◀巨大応援美人が出現、これで万人力!



ソレ引け～

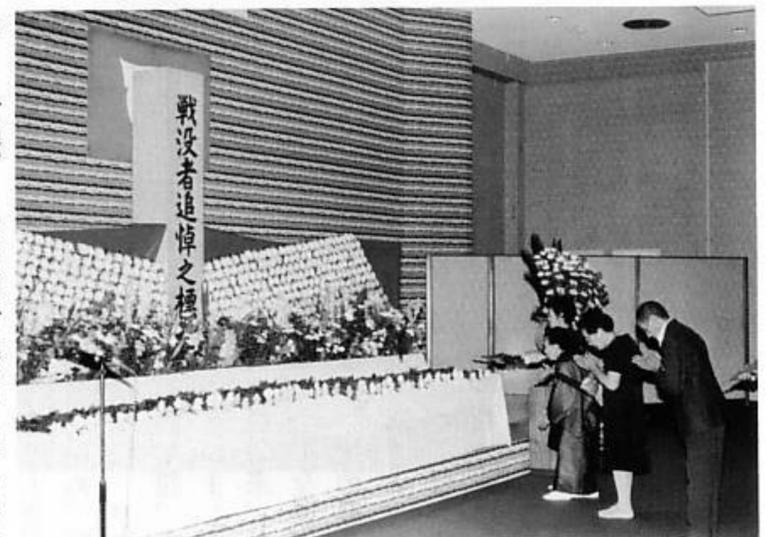


ヤレ引け～

英霊よ 安らかに 戦没者 312 柱の霊に献花

英霊よ安らかにー町戦没者追悼式が八月二十三日、有郷館で行われました。
日清戦役以降の町出身戦死病死者は三百二十二柱。式場正面中央には、国旗と町旗をバックに「戦没者追悼之標」の標柱が立ち、これを囲むように白菊や黄菊など色とりどりの生花が飾られ、参列者らは、さまざまな思いを胸に戦没者の霊に献花、平和への誓いを新たにしました。

午前十時に始まった式典では、「君が代」斉唱のあと、畠山町長が「私たちに、今日の繁栄の代償として数多くの尊い生命が失われた歴史的事実と、平和な社会がもたらす恩恵を永く子々孫々に伝え引き継いでいく責任がある。これまで



諸英霊の安らかな眠りを祈り献花する遺族ら

諸先輩が築いて来られた町づくりの礎音は停滞させることのないよう、粉骨砕身、精進してまいることをお誓い申し上げ、ご遺族と町発展のためにご加護くださるよう祈念する」と式辞を述べました。
続いて、追悼の標柱を前に戦没者の霊に一分間の黙とうがささげられ、八月十五日の全国戦没者追悼式での天皇陛下のおことばの録音が流されました。

このあと、町議会議員、由利福祉事務所長、市郡遺族連合会長、遺族会代表、戦没者遺児代表からそれぞれ追悼のことばがささげられ、午前十一時前、瞑想曲が静かに流れる中、参列者全員が戦没者の霊に献花を行い、諸英霊の安らかな眠りを祈り、式典を終えました。

いよいよ本格着工

＝出羽丘陵開発事業＝

総事業費の42.9%が本町



出羽丘陵東部区域農用地開発公団事業の着工式が八月二十五日、大森町コミュニティセンターに關係者約百人が出席して行われ、いよいよ本格的工事が進められることになりました。

この日の着工式に、本町からは、町長、議長、

議会議長、農協議長、農産委員、農協委員、農協組合長、受益者代表ら十三人が出席。午前十時から、大森町役場そばに設けられた農用地開発公団出羽丘陵東部事業所前で行われた着工式で、東部地区四町(大森・雄物川・東由利・大内)の町長らがクワ入れをし、玉ぐしを

工事の安全を祈りクワ入れする右から東海林大内町長、島山東由利町長、富田雄物川町長、阿部大森町長

さきあげて工事の安全を祈りました。

出羽丘陵開発は、同地区内の低位・未利用地を草地開発し、経営規模の拡大と近代化を図りながら、畜産物の安定的供給と生産性の向上を図ろうというものです。

東部地区全体の開発面積は五六七畝。機械施設、幹・支線農道、家畜導入を含めた総事業費は九十五億七千六百万円。工期は六十四年度までの七カ年を予定しています。

本町の同事業参加農家は百五戸で、草地造成二三八・四畝、農道整備二九・四畝のほか、機械施設整備、家畜導入

等を計画。総事業費は、東部全体の四二・九%にあたる四十一億九百万円を見込んでいます。今年度は▽板戸・更田・荒山三地区合わせて四二・二畝の草地造成▽大森・荒山二地区合わせて三、〇六〇畝の農道整備――を予定しています。

地域農業振興一大プロジェクト―ねむったままの豊富な土地資源に息を吹き込み、新時代の大農業生産基地をつくりあげようとする出羽丘陵開発に、関係者は大きな期待を寄せ、一日も早い完成の日を待っています。

住宅統計調査にご協力を

住宅統計調査が十月一日、全国一斉に行われます。この調査は、全国の約四百万の住宅・世帯を対象とした「住宅の国勢調査」といわれるものです。九月二十四日から三十日までの間に、県知事が任命した調査員が、調査の対象となったご家庭を訪問し、調査表を配って、記入をお願いいたします。正しく記入のうえ、十月一日～七日に再び調査員が訪問しますのでお渡しください。

調査した事柄は、統計を作るためだけに使われます。調査員や関係者が調査内容をほかの人に漏らしたりすることは、法律によって固く禁止されています。安心して、正しく申告してください。ご協力をお願いします。

町長選挙 投票の開被せす

町選管 開票時の処理に誤りなし

任期満了に伴い七月二十三日投票が行われた町長選挙結果について八月六日、小野要造氏(下小路)、高橋政一氏(同)、遠藤作治郎氏(桂台)の三人が連名で「当選した島山氏の得票とされたものの中に、無効とすべき疑いのあるものが九十七票含まれている」という内容で、全投票の再点検を求める異議申し出

を町選挙管理委員会に行いました。異議申し出の要旨は、一、右から左下、または左上から右下に斜めに島山候補の氏名を記載したものが三十六票ある。これは、正常の記載方法とは言えず、かつ、相当数あることは集団的、暗合的で、他に意味を持つ意識的他事記載と解さ

れるべきで無効投票である。このほか、投票用紙を用い横書きしたものが八票あり、これも前述と同類で無効とすべきものである。二、単に「山」、または「島」の一字を記載したものが四十二票あり、これは、島山候補の固有な呼び名としての特定性があるとは言いがたく、文字の形体筆記力等から投票者の不注意から脱落されたものとは考えられず、他意のある他事記載の投票であり、無効とすべきものである。

三、「亮一郎」と書かれた一票も、候補者名と類似性はあるにしても、記載文字からする筆力、智力などからして候補者の氏名を誤認し、誤記したものと言いがたく、前述二の同類の意味を持つものと推断されるべき投票で無効とすべきものである。よって、島山亮二郎の当選を無効とし、小松栄男を当選人とすべきである。となつています。

これを受けた町選挙管理委員会では八月二十六日、委員会を開き、申し出人から異議の内容などについて説明を求めました。この中で、「申し出書にある無効とすべき九十七票は、どうやって把握したかの問いに対し、申し出人は「周囲から情報を収集し、推定したものである」と回答。そのあと、委員会は三人に退席を求め、対応について協議した結果▽開票は厳正に行われており、かつ有効投票について「斜め書き」「横書き」「一字記載」等、項目別に類別はしておらず、申し出書にあるような数字をまとめることは

不可能▽異議申し出書にある斜め書きや横書き、一字記載などは、法の規定の趣旨からしても有効とすべきものであり、開票時の処理に誤りはない▽その票の記載の仕方が「集団的、暗合的」かどうかまで選管がせんさく、憶測する必要はない――として、投票の再点検は行わないこととし、棄却すべきであるということ、意見が一致。決定書については、九月二日に再度委員会を開いて決定、告示するとともに申し出人に送付することにしました。



手製いかだで高瀬川下り

交通安全祈願とゴミ回収

八月七日、快晴、絶好の川下り日となり午前十時、野球チーム「パイレーツ」と有志を乗せて、高瀬川上流の両前寺から交通安全祈願とゴミ回収をしながら川下りを始めました。

当初の計画より時期がゴミ回収をしながら、手製いかだで高瀬川を下るパイレーツと有志の皆さん

即売通して流通体験

農近ゼミで青空市場開設

新鮮な野菜を安く地元の皆さんに――町農業近代化ゼミナールの会員たちは八月十一日、自分たちがつくった野菜を中心に、矢島信用金庫向かいの空き地で青空市場を開きました。

これは▽即売を通して実際の流通体験▽消費者との接点を見い出す▽新鮮で安い野菜の提供――などを目的に、去る五十六年から毎年この時期に開いているものです。

この日販売したものは▽トウモロコシ▽スイカ▽枝豆▽カボチャ▽茄子▽食用菊▽ピーマンなど二十品種。新聞折り込みチラシでPRしたこと



「スイカやトウモロコシは飛ぶように売れたのに対し、カボチャや茄子、サヤインゲンなどの一般野菜の売れ行きは意外に低調だった」と好評ながらも、物を売る難しさを実感した農近ゼミの青空市場

今後「美しい街は、きれいな川から」をスローガンに、この川下りを続けたいと思います。(文と写真パイレーツ)

おもしろい話題、珍しい話題がありましたら、広報担当まで記事(写真含む)をお寄せください。

県からの支払・県への納入について

本年八月から、銀行等の金融機関が毎月第二土曜日に休業することになりましたので、当日は県からの支払いや金融機関を通じての県への納入はできなくなりました。

このため、県では、支払いについてはその前日とし、納入については翌々日の月曜日とするように取り扱うことになりました。

なお、県税等で、当日納入する必要のある方は、最寄りの県税事務所又は、地方部企画管理室の窓口で受付をします。秋田県

【ふるさと将棋大会(町将棋愛好会主催、8月15日・朋楽荘)】

・参加者二十人、リーグ戦▽優勝||小野裕明(宿)▽準優勝||畠山園侶(寺田出身、横浜市)▽三位||阿部力(十二の前出身、本荘市)



胃ガンが全体の2分の1

9月はガン制圧月間です

あなたは今年、胃検診を受けられましたか? ガンで死なないためには、今のところ検診を受けて早く発見し治療する以外に方法がありません。ガンは、臓器や皮膚、粘膜、骨髄を問わず、人間のあらゆるところに発生します。

- 1、偏食しないで、バランスのとれた栄養をとる。
- 2、同じ食品をくりかえし食べない。
- 3、食べすぎをさける。
- 4、深酒はしない。
- 5、喫煙は少なくする。
- 6、適量のビタミンA・C・Eと繊維質のものを多くとる。
- 7、塩辛いものを多量に食べず、あまり熱いものとはらない。
- 8、ひどくこげた部分は食べない。
- 9、カピの生えたものは食べない。
- 10、過度に日光に当たらない。
- 11、過労を避ける。
- 12、体を清潔に保つ。

ものです。比較的近い場所でも、安いの費用で受けられるので「忙しいから」とか「おっくうだ」とか「恥ずかしい」などと言ってせっかくの機会を利用しない方が損をします。

豆記者通信



大琴小6年 阿部誠君(右) 島山宰君(左)

ぼくたち大琴小学校では、学校のすぐ前が、学校農園になっていて、毎年、スイカをはじめ、いろいろな物を作り育てています。今年、五月の初めにお父さんたちが機械で畑を耕してくださいました。大きい石、小さい石がゴロゴロ出てくるので、ぼくたちは石ころ拾いをがんばります。

みんなでスイカ作り

学校農園で労働体験学習

ぼくたち大琴小学校では、学校のすぐ前が、学校農園になっていて、毎年、スイカをはじめ、いろいろな物を作り育てています。今年、五月の初めにお父さんたちが機械で畑を耕してくださいました。大きい石、小さい石がゴロゴロ出てくるので、ぼくたちは石ころ拾いをがんばります。そしてうね作り。ぼくたちも、くわを手に、汗を流します。「わーへ

つぶり腰」なんて笑ったり、手にマメを作ったりで、大さわぎです。五月六日にスイカの苗の植えつけでした。みんなは「早く大きくなれよ」と祈りながらせつせと植えていました。三年生は、このスイカをずっと観察し、理科の勉強にも役立てています。7月25日が初収穫でした。さつそくみんなが食べて見ましたが、天候が悪かったせいか、あまりおいしくなくて少しがっかりしました。そして8月10日は水泳記録会のあと、スイカ祭りです。8月に入ってから、いい天気が続いたせいか、スイカもずっと大きく、味も最高でした。



みんな、石ころ拾いや、草むしりをせつせとがんばってよかったと思いました。今、農園には、スイカのほかに、トマト、トウモロコシ、サツマイモもあります。秋のイモほりを今から楽しみにしているぼくたちです。「早く大きくなれよ」と祈りながらスイカの定植

知ってますか!! 「救急の日」



九月九日は「救急の日」、この日を含む一週間は「救急医療週間」です。

それゆえに、住民の正しい理解と認識が必要不可欠なものとなっております。自分で病院に行けるような怪我、軽い病気などでの安易な救急車の要請は、絶対慎まなければなりません。

本荘地区消防事務組合管内の昨年の救急総出動件数は九百八十六件、今年七月末日まですでに六百二十八件を数え、前年比五十三件の増となっております。

出動件数を事由別にみると、急病人一三・八%、交通事故一〇・五%で、両者合わせて全体の約四分の一を占め、さらに増加の傾向にあります。一分一秒を争う救急業務、



大丸太に息を吹き込む

大台分校で県彫刻製作会

昭和五十八年秋田県彫刻シンポジウム(製作会)が、七月二十五日から十日間、大琴小学校大台分校で行われました。参加者は、県内でも一流といわれる彫刻家ら十四人。うぐいすの鳴き声を耳に、製作に励む彫刻家たち

大学教授や高校教師、農業、自営業など職業も多彩。材料はほとんどがかつらの大木で、寝食をともにしながら、直径七〇センチから一メートル、長さ二メートルほどの丸太を、自分のイメージに合わせてチェーンソーやオノで切り削っていきます。八月一日夜には、大台地区住民も加わって「彫刻祭」が

盛大に催され、夜のとばりがおりた大台の里に、吹き上げ花火やカラオケが遅くまで響き渡っていました。荒仕上げされオノの跡が残る彫刻品は、各自が持ち帰ってノミ等で本仕上げしたのち、今秋、東京で開かれる展覧会に出品されることになっています。うぐいすが鳴き、緑濃い大自然の中で息を吹き込まれた作品は、きつと観覧者の目と心をとらえることでしょう。

後田随想

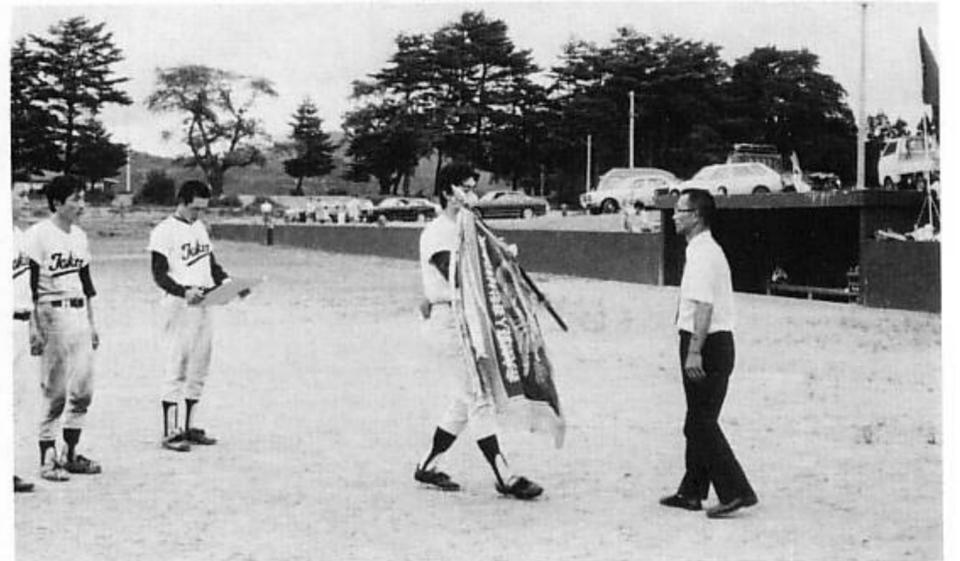


産業経済課長 榎野忠義

稲の生育は、天候不順により四〜五日くらいは遅れているといわれていましたが、最近になって持ち直した感じがします。これからは、穂イモチ病等による被害が心配されています。出羽丘陵開発事業は、いよいよ本年九月から着工することになりました。出羽丘陵地域の低位利用地を草地開発し、肉用牛の濃密生産団地を形成して農家所得の向上と経営の安定を図るというものです。事業主体は農用地開発公団。出羽丘陵東部地区四町(大森、雄物川、大内、東由利)の総事業費は九十五億七千六百万円で、本年度から七カ年の継続事業となります。本町の総事業費は、全体の四三%にあたる四十一億九百万円。事業内容は▽草地造成二三八・四畝▽幹・支線道路二九四四四畝▽農業用施設及び農機具一式一で、参加農家は百五戸です。今年着工するのは▽板戸▽大森▽荒山▽更田▽荒山一の四団地で、畜産振興のため早期完成を願うものです。県営ほ場整備事業も本年度で大部分の工事が完了する予定です。来年度から実施する第三期山村振興対策事業の導入と合わせて、暗渠排水の未整備地区を対象に基盤整備を計ってまいります。ご理解とご協力をお願いします。

役場が三年ぶりに優勝

26チーム参加の社会人野球大会



三年ぶり三度目の優勝旗を手にする役場チーム

町野球協会(長沼久男会長)の主催する第二十五回社会人野球大会は、八月十六日から三日間、町民・台山・横渡(初日のみ)の三グラウンドで行われました。

今大会には、昨年より三チーム少ない二十六チームが参加。大会二日目には、台風五号による突風が吹き、土ぼこりが舞う悪コンディションに見舞われましたが、各チームとも甲子園に負けじと連日熱戦

を繰り広げました。

決勝カードは、昨年と同じパワーズAと役場の対戦。試合は、役場が三回に三点を入れ先行、六回に一点を加えそのまま逃げきりかと思われましたが、七回裏、パワーズAは、死球、エラーで出した走者をヒットで返す粘りを見せ、八回表役場は、パワーズAの二番手ピッチャーの制球難に乗じて一挙五点をあげ、

結局、9-4で三年ぶり三度目の優勝を飾りました。

準決勝、決勝の戦績は次のとおりです。

【準決勝】

| | |
|------|----------|
| 五海保 | 10110003 |
| ベアーズ | 022004X8 |
| メッツ | 20000002 |
| 役場 | 111120X6 |

【決勝】

| | |
|-------|-----------|
| 役場 | 003001059 |
| パワーズA | 000000404 |

(延長八回)

【大琴診療所前】 小野照雄、佐々木日出夫、長谷山久、長谷山節男、小松真、大塚和穂、小野実、畑山寅松、佐々木昌之助、畠山基保、遠藤テツ子 (以上十一名)

【大蔵館前】 石渡博一、渡辺秀雄、小笠原キワ子、阿部久、小野節子、鈴木ヒサ、小笠原豊和 (以上七名)

【農協玉米支所前】 高橋富男、三浦良男、小野賢治、菊地ハル子、佐々木信夫、高橋政一、小松正雄、小松草子 (以上八名)

52名が善意の献血

目標達成まであと74本

県の移動採血車「あかつき号」が八月八日来町し、町内

四カ所で次の五十二名の方々にから尊い血液の提供を受けました。

献血されたこれらの血液は、重病で輸血を必要とする人や交通事故など思いがけない大事故でひん死の重傷を負った

人たちの生命を守るため有効に活用されています。

生命の危機を求む善意の献血は、まさに尊い行為といえます。

五十八年度町の献血目標本数は百九十本。これまで百十六本の協力を得ました。次回の「あかつき号」来町予定は十二月九日となっております。今回以上の多くの協力が期待されています。

(敬称略)

【役場前】 畠山栄雄、阿部弘章、伊東健市、小松英治、工藤良、榎野寿保子、小松健、佐藤幸輝、守屋正、阿部寿夫、小野肇、鍛崎芳造、高沢照久、小松文介、小野義雄、高橋賢太郎、佐藤孝悦、石渡博澄、小松信記、猪股寿和、高橋慶一、畑山文子、小松秀穂、佐藤十内、大坂聖子、高橋京子 (以上二十六名)

て応募してください。

▽締め切り 9月24日

▽応募・問い合わせ先 役場産業経済課

【作品例】

イラスト

「ごはんは日本のふるさと母の味」

「健康は早寝・早起き・朝ごはん」

【東由利の地名】

= 39 =

江戸幕府も四代の頃になると基礎も固まり、世相も落ち着いてきた。しかし参勤交代や人口増、生活の向上などにより、各藩の財政は次第に苦しいものになっていった。補う意味で農民と利害の一致する開墾や新田開発を各藩は奨励した。

東由利町古文書解読集の第三集に、安永一〇年(一七八一) 玉米の肝煎をしていた小松弥右エ門さん(館合西久保、

小松忠亮元助役さんが後裔に当る)が書いた「玉米館野村開発覚書」が載っている。この覚書は約一三〇年前からの記録や言い伝えなどをまとめで、矢島藩山科理右エ門宛に差し送ったものである。

これによると、私の祖先の

新田(玉米) ①

弥右エ門が須郷田向いから台山までを開墾の適地と見て、承応元年(一六五二)藩にお願いしたところ首尾よく許しが出、同年中に川内田代村の下より、堰の取り付け口の工事をした。そして明暦四

年(一六五八)新田として開発する五カ所をお願いし、許しが出ていること。この五カ所は「須郷田向堰下林之内、上台野・小林館野・牡丹野・上下台山・堤下此五カ所也」とある。また肝煎として役高二〇石をもらったこと。新田開発で百姓から証文をまとめるのに苦労したことなどを、年を追って綴っている。そして新田開発が進んだことにより、人口がふえ家数も多くなったことにより、元禄八年(一六九五)頃から館野村と申すようになったとある。

(文・畑山昭一)

米の消費拡大

標語・イラスト・ポスター募集

日本人の主食
お米は栄養
価も高く、日本
人の主食として
これ以上のもの
はありません。

ハンカチ
シャツ
プレゼント

欧米では、米を中心とする食生活が見直され「日本食ブーム」が起っています。

町では、こうしたお米をもっとたくさん食べてもらおうと、次により標語・イラスト・ポスターを募集することになりました。

応募者にはもれなく特製デザインハンカチを、また入選作品十点には特製デザインTシャツを差し上げます。規格・サイズは問いません。奮っ



9月(ながつき)のこよみ

| 曜日 | 行 | 事 |
|----|---------------------|--------------------|
| 1 | 木 | |
| 2 | 金 | |
| 3 | 土 | |
| ④ | 日 | 県畜産共進会(本荘市) |
| 5 | 月 | |
| 6 | 火 | 町連合PTA研修会 |
| 7 | 水 | 県社会福祉大会 |
| 8 | 木 | 9月定例議会招集 |
| 9 | 金 | |
| 10 | 土 | |
| ⑪ | 日 | ママさんソフトボール大会(雨天中止) |
| 12 | 月 | |
| 13 | 火 | |
| 14 | 水 | |
| 15 | 木 | 敬老の日 |
| 16 | 金 | |
| 17 | 土 | |
| ⑮ | 日 | |
| 19 | 月 | |
| 20 | 火 | 町福祉を高めるつどい(有鄰館) |
| 21 | 水 | |
| 22 | 木 | |
| 23 | 金 | 秋分の日 |
| 24 | 土 | |
| ⑳ | 日 | |
| 26 | 月 | |
| 27 | 火 | |
| 28 | 水 | リハビリ学級、農業委員会 |
| 29 | 木 | |
| 30 | 金 | |
| 摘要 | 9/1~9/30 第24回ガン制圧月間 | |

おしらせ

町の概要

| | | |
|-----|-----------|-----------------|
| 人口 | 6,226 | 人人 |
| 総数 | 3,076 | 人人 |
| うち男 | 3,150 | 人人 |
| うち女 | 1,431 | 戸 |
| 世帯 | 148.51 | km ² |
| 面積 | (58.7.31) | 現在 |

青年の主張全国コンクール原稿募集

NHK秋田放送局

【参加資格】 昭和33年1月16日から昭和43年4月1日までに生まれた方。

【テーマ】 次の三つで、テーマの趣旨に沿ったものであれば題名は自由につけても結構です。

- 1、青春、ここに打ち込む、
- 2、わたしの生き方を変えた

もの
3、いま、日本人のひとりとして

【原稿の長さ】 四百字詰原稿用紙四枚程度(発表時間五分以内)

【応募期限】 10月21日(金) 一人一題に限りません。

【送付先・問い合わせ先】 〒010 秋田市山王一丁目一番二号 NHK秋田放送局「青年の主張」係(電話〇一八八一三—五四一一)

昭和59年歌会始・詠進歌

お題は「緑」

締め切りは10月11日

◎詠進歌は、自作の歌で一人一種とし、未発表のものに限ります。

◎用紙は、半紙(習字用の半紙)

紙(白紙)がよい)とし、毛筆で自書してください。(病氣などで自書できない場合には、代筆しても差し支えありません。この場合は、すべてその理由を書いた別の紙を添えてください。)

◎書式は、半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌左半面に郵便番号、住所、氏名(本名、ふりがなつき)、生年月日及び職業を書いてください。

◎締め切りは昭和58年10月11日(当日消印有効)

◎作品送付先 〒100 東京都千代田区千代田一番一宮内庁一とし、封筒に「詠進歌」と書き添えてください。

詠進歌は、小さく折って封入しても差し支えありません。

◎疑問、詳細については、直接「宮内庁式部職」あてに、

郵便番号、住所、氏名を書き返信用切手をはった封筒を添えて、九月末日までに問い合わせてください。

NHK学園 社会通信講座・58年度(秋の)受講者募集

NHK学園では、昭和58年度秋の「社会通信講座」の受講者を募集しています。

この通信講座は、レポート

社福だより

大琴の佐々木幸雄さんから亡父易之助氏の香典返しとして金一封が届けられました。

蔵の佐藤萬一さんから、亡父萬次郎氏の香典返しとして金一封が届けられました。故人のご冥福を必よりお祈り申し上げます。

慶弔だより

7月21日~8月20日受付 (敬称略)

〇いぶ声

- 畠山愛絵 石高 洋 長女
- 大日向猛 宮の前 幸男 長男
- 鈴木達也 沼 靖 二男
- 高橋英樹 杉森 栄記 長男
- 畠山 梢 茂沢 栄雄 長女
- 阿部大輔 大琴 一久 二男

〇結婚

- 小野源行 上里
- 高橋明美 雄和町

町自治功勞者

阿部次郎氏逝去

町自治功勞者の阿部次郎氏(野田)は、病氣療養中のところ、八月十九日に永眠されました。六十六歳(大正五年十月九日生)

議員、東由利町民生委員等の公職を歴任、民生の安定、町勢の振興発展に尽くされました。昭和四十三年十一月、東由利村自治功勞章受賞。心からご冥福をお祈り申し上げます。

※詳しい案内書をご希望の方は、お近くのNHKまたは左記へ講座名と氏名、住所、電話番号を書いてハガキで請求してください。無料でお送りします。

〒186 東京都国立市富士見台2-36 NHK学園CT係 (電話0425-72-3155(代表))

- 横山 一郎 智者鶴
- 阿部 ミチ子 羽後町
- 小松 徳重 下通
- 守屋 千司子 新町

・お悔み申し上げます

- 木島 久悦 蔵新田 43歳
- 佐々木直蔵 新町 70歳
- 佐藤萬次郎 蔵 78歳
- 阿部 保次 中通 81歳
- 小松 寅次 湯出野 78歳
- 小松 信男 宮の前 49歳
- 佐藤千代雄 大吹川 87歳
- 千葉 マツ 中の沢 74歳

